

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ユスタバ		
○保護者評価実施期間	2025年 2月 3日		～ 2025年 3月 7日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20名	(回答者数) 18名
○従業者評価実施期間	2025年 3月 3日		～ 2025年 3月 7日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 13日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	一人ひとり、個別的な発達支援： 集団の中にあっても、一人ひとりの特徴を捉えて、個々に関わっています。部屋を構造的に区切り、子どもたちが見通しを持って行動出来るように環境を工夫しています。	子どもの特徴や様子をクラス内で共有し、その子に合った支援を行えるように気を付けている。開所前や子どもたちが帰った後、直接話せない場合も、意見を共有しています。	職員間の情報共有が不足していることがあるので、どんな細かいことも、すぐに共有してスタッフ間で情報の差が生まれないようにする工夫が必要。
2	各職員が子ども達に適切に関わっていけるように、様々な研修で専門性を高めています。研修は、職員の年代や職種別に行っています。	虐待防止・権利擁護について、週に一度、アンガーマネジメントの練習や研修を行っています。また、年代別の研修や外部講師による研修に積極的に参加している。	今後も研修を重要な学びの場として、積極的に参加していく。
3	家族支援として、法人全体で支援をしています。個別カウンセリングやグループカウンセリング、様々な自助グループなどへの参加、年2回の親子発達支援から家族の困りに寄り添い、支援に繋がっています。	家族との連携として、グループカウンセリングに職員が参加したり、CSPを学ぶ場を提供しています。また、事業所携帯や緊急携帯で家庭を繋がりやすい環境にし、困り感を受け止められるようにしている。	今後も、家庭・保護者にも寄り添って、困り感を受け止めて支援に繋がっていきけるよう取り組んでいきます。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域の子もたちとの交流が少ない： 地域の公園や公共の場で地域の子もたちと一緒に活動する事もあるものの、事業所に招いたり、地域の行事に事業所として参加する等は行っていません。	新型コロナやインフルエンザなどの感染症の流行等があり、地域での交流を積極的になれない面があります。	引き続き、地域の公園等では、地域の子もたちとの関わりも大切にしていきます。
2			
3			